



発行●新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所
住所●埼玉県所沢市弥生町2996-6 山口ビル1F TEL/FAX 04-2994-3212
発行日●2004年(平成16年)4月23日

VOL. 24



切絵 毛利将範

昨年はリレーフェスティバルや流域フォーラムの開催と、夏から秋にかけて活発な川づくり活動が行われました。その後、流域全体での大きなイベントがないままに、季節も秋から冬へ..そしてまた、新しい春の息吹が感じられる季節になり、今年の川づくり活動の先駆けとして本紙「里川」が半年ぶりの発行になりました。

「里川」はこれからも、新河岸川流域の市民の方々の川づくりに関する活動報告や国、東京都、埼玉県などの情報提供などを行い、市民間、市民行政間の架け橋となってまいります。皆さまよろしくお願いたします。

目次

- P2-3 特集：今、湧水に注目です！
- P4-6 レポート：柳瀬川にアユがいた！
「出前水族館」
いたち川見学会
- P7 HPリニューアルのお知らせ
川の知識Q&A
- P8 流域イベント・インフォメーション
新所沢事務所通信

特集：今、湧水に注目です！

第2回 湧水保全交流フォーラム (in 白子川)

去る3月7日(日)、和光市中央公民館において「第2回 湧水保全交流フォーラム」が開催されました。

午前中は第一部として白子川湧水めぐりを実施。白子川と流域の水環境をよくする会の皆さんに、白子川流域にある湧水の現状を案内していただきました。

会の坂本さんは、「白子川流域には小さな湧水が数多くあります。白子川はその湧水が供給されることで流れを生んでいる川なのです」と言います。

白子川流域の湧水の現状を、以下の3つの視点から報告します。

- ① 自然のままに維持されている湧水
- ② 生活に活用されている湧水
- ③ 開発によって破壊された湧水



不動院の湧水池 (自然のままに維持されている湧水)

「もう30年近くも水さらいをしていないので、濁っていますが、水は昔のままに湧いているので、掃除さえすれば今でもきれいな泉に戻ります」と会の加藤さんは期待します。昨年、有志の方による企画がありましたが、池の補修と管理体制のことが懸案となり、ひとまずは保留になったとのことでした。



せせらぎに湧水利用する酒屋さん (生活に活用されている湧水)

この地域では湧水を引いて生活に使っていましたが、今では水道が敷設されたので、余った湧水を駐車場の隅に流し、せせらぎを創出しています。せせらぎにはクレソンやお米まで栽培されており、よく見るとめだかも泳いでいます。傍らには切り株のいすとテーブルがあり、地域のコミュニティをも創出しています。



湧水地に建設されたマンション (開発により破壊された湧水)

もとは料亭「百涯荘」があり、庭園には湧き水の池があったそうです。この崖を切り開き、マンションが建っています。湧き水が流出していた急な崖は、コンクリート擁壁で塞がれていました。「市民の湧水保全への働きかけが足りなかったことも、簡単につぶされてしまった理由の一端がある」と会の田中さんは語ります。地表に姿を見せなくなった湧水はどこへ行くのでしょうか。

午後は、第二部としてシンポジウム「湧水とその環境を学ぶ」、第三部としてワークショップ「湧水保全の事例と手法」が、和光市中央公民館2階会議室にて実施されました。

シンポジウムは、森誠一岐阜経済大学教授による基調講演にはじまり、4名の方の話題提供があって、湧水のメカニズムや湧水に生育・生息する魚類や生物等、湧水環境について学びました。

また、ワークショップでは、国や自治体などの湧水保全に関する事例や取り組みについてを、各担当者よりうかがいました。

(右プログラム参照)

今回フォーラムの事務局 神谷さんの言葉をお借りすれば、「今は、長く守られてきた名泉ですら危機にさらされている」状況にあるようです。

白子川に流れをもたらす白子川流域の湧水ができるだけ保全されることに期待します。

紙面都合で概略しか掲載できずにすみません！「白子川と流域の水環境をよくする会」の皆さん、当日の案内、どうもありがとうございました！



プログラ

<第一部>フィールドワーク「白子川湧水めぐり」
白子周辺の湧水と湧水タンクを見学(白子川と流域の水環境をよくする会、白子川源流・水辺の会)

<第二部>シンポジウム「湧水とその環境を学ぶ」

司会進行: 星野順子(湧水保全フォーラム)

基調講演: 森 誠一(岐阜経済大学教授)

話題提供: 開発法子((財)日本自然保護協会)

小倉紀雄(東京農工大学名誉教授)

末永和幸(応用地質研究所)

篠田授樹(地域自然財産研究所)

<第三部>ワークショップ「湧水保全の事例と手法」

コーディネーター: 神谷 博(湧水保全ネットワーク)

出席者: 湧水保全ネットワーク参加市民団体及び個人

環境省環境管理局水環境部、国土交通省河川局、東京都環境局多摩環境保全事務所、世田谷区烏山総合支所

まちづくり課 他

まちづくり課 他



基調講演にて、湧水に棲むトゲウオなどの話をされた岐阜経済大学教授の森先生です。

水辺を生かしたまちづくり

黒目川流域では、3月13日(土)に「水辺を生かしたまちづくり」と題して、多摩美術大学教授 渡部一二さんをお招きしてのまちづくり講演会を実施しました。

渡部さん、「水と人との関わりは『用水(水を用いること)』にあり、用水に必要なことは、利用する水を守ること(用水=湧水であるなら)湧水を守ろうとする人々の集まり『湧水グループ』をつくることで、用水を利用する人は皆、水をきれいに保つための努力をしている」と言います。また、「朝霞市の湧水は貴重な財産である」という意見も述べていました。

朝霞・水の会(黒目川に親しむ会)の小林さんいわく、朝霞市内には現在確認できるだけで20箇所以上の湧水があるそうです。「朝霞地域の特徴を生かしたまちづくりを提案していくためにも、渡部さんの話にあった『湧水グループ』をつくっていききたい」と、小林さんは語られました。

講演会の様子(写真中央が渡部さんです) 朝霞市コミュニティセンター 集会室にて

所沢の柳瀬川にアユがいた!

所沢源流の会 小黑譲司さんからのレポートです。

アユは清流の女王と言われていて、かつて汚濁にまみれていた川もアユの姿が見られれば、「この川も本当にきれいになったね」と言えるのだと思います。また、アユは成長段階で棲家を川から海へ、海から川へと移す魚ですから、アユが戻ってきたら「この川の自然再生もようやく本物になってきたね」とも言えるのではないのでしょうか。

そのアユが所沢の柳瀬川にいたんです。

昨年の10月5日に、私たちは所沢の柳瀬川の4箇所(上安松の淵の森、久米の二瀬橋、荒幡の地藏橋、山口の桜淵橋)で魚の調査をしました。アユが取れたのは淵の森と二瀬橋です。それぞれ体長20cm前後のものが2匹ずつ採捕されました。複数の場所で複数のアユが取れたのですから、人為による放流ではないと思っています。

今までは、柳瀬川では清瀬がアユの発見の最上流地点でした。清瀬にある堰のためにアユはそれ以上遡上できないと考えられていました。

そうじゃなかったんですね。アユはちゃんと堰を乗り越えて上流まで来ていたんですね。そのアユの生活力の逞しさにも感激したのですが、私たちのなによりの喜びは、「所沢の柳瀬川の自然がここまで戻ってきたのだ」ということを実感したことでした。

二瀬橋と地藏橋はちょっと距離が離れています。地藏橋ではアユは確認できませんでしたので、アユの遡上最上流地点が何処かということは判っていません。

しかし、地藏橋でも桜淵橋でも、タモロコ、モツゴ、オイカワ、ドジョウ、メダカ、ヨシノボリ、ギンブナ、テナガエビなどがたくさん取れました。

当日は柳瀬川周辺にお住いの人たちが大勢見に来られて、今さらのように「この川にこんなにたくさんの魚がいたのか」と感激と驚きの声をあげておられました。特に子供たちは大騒ぎでしたが、人々の川離れの傾向が強い昨今、柳瀬川周辺の人たちに多少とも「身近な川を見直す」気持ちを持っていただけたのではないかと思います。そういう気持ちが芽生えてくれば、川にものを捨てる人もいなくなってくるのではないのでしょうか。



二瀬橋上流で取れたアユ。体長が20cmを越えていました。



調査地点位置図

以上、私のささやかな経験ですが、喜びが大きかったです。皆さんにもご報告したいと考えました。

なお、当日は経験不足な私たちの指導に、新河岸川水系水環境連絡会から、東久留米の菅谷さん、小松原さん、朝霞

の小林さん、志木の小島さん、富士見の伊藤さんに来ていただきました。アユが取れたのはこの人たちの投網によるものであって、私たちだけでは到底取れなかったと思います。この場をお借りして皆さんにお礼申し上げます。どうもありがとうございました。



地藏橋際の様子。子供たちは興味津々でした。

サクラまつりに「出前水族館」 第9回 長勝院ハタザクラまつり

志木市の「市民の木」、世界に一本しかない「チョウショウインハタザクラ」を囲むお花見が、去る4月4日(日)に開催されました。

からのレポートです。

以下は、当日、会場である長勝院跡(志木第三小学校)に「出前水族館」を出展した、エコシティ志木の小島さんからのレポートです。

エコシティ志木は、黒目川の活動に見習い、4年前から魚類を採捕、道行く人への水槽展示(柳瀬川下流の志木中学校前、毎月1回の定点調査)をしています。また、市内で開催される行事に押しかけ、魚たちを見てもらう「柳瀬川出前水族館」も行っています。

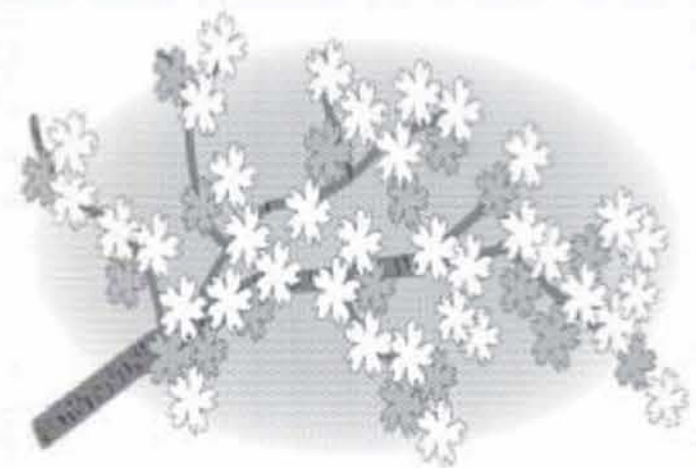
今回おじゃましたのは「志木市環境教育推進員の集い」が主催する「第9回ハタザクラまつり」(4月4日)「樹齢400年を超える長勝院のハタザクラを鑑賞するおまつり」で、沢山の市民の方へ旬のお魚を紹介しました。

まだ春も早く魚たちの賑やかさはありませんが、ボラの子、ウグイの子、ドジョウの子、羽黒トンボのヤゴ、淡水シジミなどを展示しました。

水槽を覗き込む人から、「昔は、シジミを沢山採った」とか「タナゴはいないの?」などの子供の頃の柳瀬川のお話をさせていただいたり、「ボラは40kmも遡るの」「アユはどこから来るのか」などのお話をし、再び魚たちが戻ってきた柳瀬川の様変わりに、みんな感激していました。

総合学習や川まつりなどで子供たちの川の体験活動はかなり進展してきていますが、昔の子供だった人達(大人)への関心を広めるには、こうした取り組みもけっこうよいのかもしれないといった感想です。

皆様いかがでしょうか。.. 出前は?



不老川流域づくり市民の会の皆さんが いたち川見学会 を実施しました!

不老川流域づくり市民の会の皆さんが、横浜市栄区を流れる二級河川いたち川に多自然型工法の見学に行きました。

3月17日(水)、当日は少し風は強かったものの暖かな日差しの降り注ぐ絶好の見学日和でした。皆さん、上着を腰に巻き付けたり、手に持った見学となりました。

案内役は、横浜市栄土木事務所(現在は泉土木事務所勤務)で長年いたち川の計画や整備を担当された 和久井征治さん です。

見学は以下の3カ所です。

- ① 都市整備区間(低水路整備)
- ② ふるさとの川整備区間
- ③ 最上流(ミズキの池)～
いたち川 小川アメニティ



①都市整備区間では警察学校橋～水神橋までの低水路整備を見学しました。自然に見える低水路ですが、石の一つひとつにまで手が加えられているとのことでした。



②ふるさとの川整備区間では、稲荷森の水辺を見学しました。河川整備は線ではなく層で考えるとおっしゃる和久井さん。多自然型の水辺にはハグロトンボやアオバツクなどの貴重な生物も見られるようになったそうです。



③小川アメニティには湧水を汲み上げる井戸がありました。早速あそび始めるお子さんに、地域の人々が楽しめる整備が大切と言う和久井さん。

見学を終えた会の方に感想を聞くと、「いたち川は自然のようであるが実はつくられた川なんですね。これが本来の多自然型工法だなあと感じました」と皆さん歓心しきりでした。

水量や水質、また、流域のおかれた状況など、不老川との相違点はしっかりと認識しつつも、皆さん様に「不老川にもできることがありそうだし」と、見学の疲れもみせず、意気揚々と帰路につかれました。

最後に、快く案内役を引き受けて下さった和久井さん。どうもありがとうございました。

ホームページがリニューアルオープン!

<http://www.ara.or.jp/arage/shingashi/index.html>

新河岸川流域川づくり連絡会ホームページは、この4月よりデザインを一新しました。この先は内容も徐々に向上させていこうと思います。この機会に是非一度ご覧いただき、事務局まで、ご意見・ご感想などをお寄せ下さい。

はっきり、くっきり!
読みやすくなったね!



※事務局では、このホームページを活用し、様々な情報発信をできるだけタイムリーに行いたいと考えています。連絡会メンバーおよび新河岸川流域の皆さまからの情報提供をお待ちしています。



川の知識Q&A

～表流水と伏流水～

第1回

伏流水とは、河川などの地表の水が地中に浸透して、地中を流れる水のことで。簡単にいえば、地表を流れている水が表流水で、地中を流れている水が伏流水になります。

しかしながら、この伏流水、けっして地下のトンネルを川のように流れているわけではありません。地層の砂やれき(砂利)の間を、1日に1m～数m程度、それはゆっくりと流れているのです。

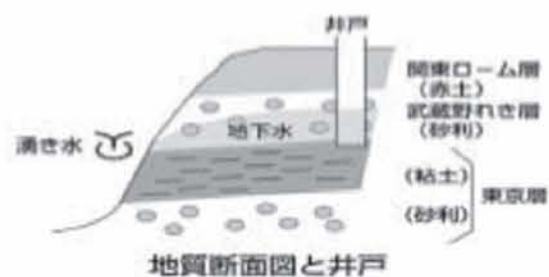
伏流水の流れは、地層の種類や重なり具合によって決まります。重要なのは地層中の水の動きやすさ(これを透水性といい

ます)です。水が動きにくい粘土のような地層を「難透水層」これに対して水が動きやすい砂やれきによる地層を「透水層」または「帯水層」と呼んでいます。普通、透水層と難透水層は、サンドイッチのように何層にも分かれて重なり合っています。

皆さんにもなじみのある家庭の「井戸」は、そのうちの一番地表に近い透水層から汲み上げられており、「湧き水」とか「湧水」というのは、この透水層と難透水層の境目が地表に現れたところから湧き出している伏流水なのです。(※下図参照)

最近では、この伏流水を利用したビジネスも盛んです。ボトルリングして飲み水にしたり、お酒、醤油、味噌、豆腐など、水を必要とする製品に利用し、おいしさや安心面などから消費者に訴えています。しかしながらその一方では、マンションの開発によって枯渇する伏流水もあります。

さて、この機会に皆さんも、自宅そばの井戸や湧き水を見学に行かれてはいかがでしょうか。



出典: 和光市、(財)日本自然保護協会「湧き水と緑地マップ」

お知らせ!

これまで本紙に掲載しておりました「新河岸川流域川づくり連絡会 報告」は、情報の迅速性を重視し、ホームページのみへの掲載となりました。是非、以下のURLへアクセスして下さい!

<http://www.ara.or.jp/arage/shingashi/index.html>

● Infomation ●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●

イベントカレンダー

不老川流域川づくり市民の会 イベント情報

「不老川 新マップづくり 歩く・見る」

日 時：4月27日（火）、5月11日（火）、5月25日（火）

持ち物：弁当、飲料水、筆記用具

問合せ：04-2959-3831（丸橋） ※参加ご希望の方はご連絡下さい。

エコシティ志木 イベント情報

「西原斜面林の手入れ」

日 時：5月8日（土）10～12時（雨天中止）

集 合：館第3児童公園（志木二小いきいきサロン角）

持ち物：道具は貸し出しますが、あれば、剪定ばさみ、鎌、のこぎり など

参加費：無料 ※保健に加入しますので、参加者は登録が必要です。

問合せ：048-471-1338（天田）

主 催：エコシティ志木／埼玉県生態系保護協会志木支部

協 力：志木市都市整備部 都市整備課（アダプト制度）

黒目川に親しむ会 イベント情報

「春の黒目川をあるこう」

～黒目川の下流部を歩きます～ 見どころは、朝霞調節池、朝霞水門、城山周辺の湧水など

日 時：4月29日（木：みどりの日）8時半～

集 合：JR武蔵野線「北朝霞」駅 ローターリー（東武バス朝霞駅行きバス停前）

参加費：100円（保険料）

持ち物：お弁当

問合せ：048-466-0916（藤井）

「黒目川のおオブタクサ抜き」

日 時：5月16日（日）

問合せ：048-466-0916（藤井）

新所沢事務所通信

里川しんぶんについてや、活動についてのお問い合わせは、新所沢事務所までお気軽にどうぞ！

●開館時間

月・水・金：午後1時～午後5時

土・日・祝日：午前10時～午後5時

火・木：休館

会議などご利用になる場合は、開館時間の変更も可能です。

ご利用の方は新所沢事務所までご連絡下さい。

●連絡先

〒359-0043 所沢市弥生町2996-6 1 F

新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所

TEL/FAX：04-2994-3212

各支川流域や地域ので活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAXで新所沢事務所までお寄せ下さい。

